

よことねこうもん 横利根閘門と桜



(表紙写真提供：稲敷市立歴史民俗資料館)

横利根閘門は、霞ヶ浦と利根川を結ぶ重要な水運経路である横利根川の南端、茨城県と千葉県の間にある利根川合流口に位置し、閘門から約600m先で利根川の本流と合流します。

この閘門は、明治33年から昭和5年に実施された国直轄の利根川改修工事の一部として、大正3年から7年間をかけて建設されました。閘門は長さ90.9m、幅10.9m、門扉は内開きと外開きの複閘式で、建設当時は日本で最大規模と称されました。

また、設計・施工の水準も高く、中世以降のヨーロッパ閘門の伝統を受け継いだ構造は、日本の土木技術史上で煉瓦造閘門の一つの到達点を示す遺構として評価され、平成12年に国の重要文化財に指定されました。

閘門は、船が運航する際に2つの門扉を交互に開閉し、水位が異なる利根川と横利根川の水面高を一定に調整する機能、また、利根川が増水した際には横利根川や霞ヶ浦への逆流防止機能を果たしてきました。

近年、川を利用する船の数は少なくなりましたが、現在も釣り船などの運航に利用されており、建設から約100年経った今も現役で稼働しています。

平成12年に閘門に併設された「横利根閘門ふれあい公園」は、閘門と調和する西洋風を基調としており、園内に咲き誇る桜は閘門とともに美しい風景を作り出します。

ご家族・ご友人とともに、桜が咲く頃、利根川流域の水運発展に大きく貢献した横利根閘門の姿をカメラに収めてみてはいかがでしょうか。



- ◆ 場所：茨城県稲敷市西代
- アクセス：
 - 【電車】 東関東自動車道佐原香取ICから15分
または大栄ICから20分
 - 【車】 JR成田線佐原駅から関鉄観光バスと田浦
經由潮来行10分閘門下車